

TruPhase の活用(11)
—音源の位相確認(11)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(10)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

DORIAN Record DOR 90199

J.S.Bach SECULAR CANTATAS

Bernard Labaadie 指揮 Les Violons du Roy

Soli Deo Glora SDG 150

J.S.Bach CANTATA 集

John Eliot Gardiner 指揮 English Baroque Soloists

A.N.Music

J.S.Bach クリスマスオラトリオ

ヘルムート・ヴィンシャーマン指揮ドイツバッハゾリステン

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

Labaadie 盤は、コーヒーカンタータなど、バッハの世俗カンタータ集です。位相反転させると、定位が曖昧になり、過度な広がり感がでてきます。位相反転させないと、歌手の位置がはっきりとし、楽器の定位と質感が明瞭になります。

Gardiner 盤は、位相反転させると、過度な広がり感がでます。位相反転させないと独唱と楽器の定位がしっかりして、合唱が力強く、楽器の質感が明瞭で間接音も明瞭になります。

ヴァンシャーマン盤は、2000年の琵琶湖ホールでのライブの録音です。位相反転させると、定位が曖昧になり広がり感が過度になります。位相反転させないと、いかにもライブ録音であるという感じがでており、定位がしっかりして歌手や楽器の位置が明瞭になります。

4. まとめ

TruPhase での位相反転の結果、いずれの盤も正相であることが分かりました。

以上